

# 皮膚科学

## 【はじめに】

皮膚は人体を覆い外界との境をなし、生体防御の第一線として重要な役割を果たす人体最大の臓器である。かつて皮膚は単なる物理的障壁として考えられていた時期もあるが、最近では皮膚を構成する様々な細胞が全身の炎症あるいは免疫反応に深く関わっていることが示されている。また何より豊かな社会生活を送るために、健康で美しい皮膚は重要な要件である。皮膚科学はそのような役割をもつ皮膚におけるすべての異常を対象とし、内科系から外科系にわたる多岐にわたる知識と技能を求められる医学分野である。また皮膚の医学的観察はすべての臨床医学の基本であり、皮膚科学を専門としないプライマリケア医、あるいは他科診療医においても皮膚科学の基本的知識は必要不可欠である。

## 【一般目標】

臨床医として必要な最低限の皮膚科的知識を身につけ、患者およびその家族から皮膚に関する訴えを聞き取り、実際の皮膚病変から診断と治療に必要な情報を収集して他の医療スタッフに伝える力を習得する。

## 【行動目標】

- 1) スムーズなコミュニケーションを通じて患者および家族と良好な人間関係を築くことができる。
- 2) 患者および家族との面談により皮膚科診療に必要な情報を取捨選択して収集し、指導医に伝えるために整理できる。
- 3) 発疹学に基づいて皮疹を表現し、その鑑別診断を挙げることができる。
- 4) 皮膚所見と併せて身体診察を行い、その内容を踏まえてさらに必要な情報を収集できる。
- 5) 皮膚科領域の主要疾患の症候、病態、診断、治療を説明できる。
- 6) 皮膚科領域で用いられる主要な検査について、概要、有用性、限界、危険性を説明し、結果を解釈できる。
- 7) 収集した情報を基に、POMR<問題志向型診療記録>を作成できる。
- 8) 症例を要約する習慣を身につけ、状況に応じて適切な長さで提示することができる。
- 9) 担当した患者の皮膚疾患の診療に必要な知識・情報を検索・収集することができる。
- 10) 医療チームの構成や各構成員（医師、薬剤師、看護師、その他の医療職）の役割分担と連携・責任体制について説明し、チームの一員として参加できる
- 11) 医療チームの一員として適切な身だしなみ、勤務（実習）時間、挨拶などの声かけをする。

## 【実習の内容】

- 1) 第1週の月曜日の午後にオリエンテーションを行う。ポートフォリオを使用し、実習中に学んだこと、体験したことを実習中毎日漏らさず記入すること。また、実習中に調べた知識や検索した文献なども、すべて綴じ込むこと。
- 2) 第1週の月曜日に指導医を割り当てるので、以後は実習期間中、常時指導医と行動を共にすること。具体的にどのような診療行為を行うかは、逐一指導医の指示を仰ぐこと。
- 3) 火曜日の教授回診の際には、患者の概要と現在の治療の進行状態を簡潔に教授に提示すること。また、月曜日の医局会では CC（症例検討会）と手術カンファレンスがあるので、第1週の月曜日に出席して発表の手順を把握し、第2週以降は、指導医の指定した症例について症例提示を行うこと。そのために患者情報をまとめ、事前に準備しておくこと。

## 【実習の実際】

**外来実習：**一般的な皮膚科疾患の診断・治療を実践し基礎的な知識を身につける。

- 1) 外来初診患者について、病歴の聴取及び診察を行い、情報を整理して診療録に記載し（予診）、鑑別すべき疾患について学習する。
- 2) 予診を担当した患者について、指導教官の診察を見学する。
- 3) 再診患者の診察を見学する。
- 4) 外来患者に対する検査、処置、手術の見学または補助を行う。

**病棟実習：**患者とのコミュニケーションのとりかた、チーム医療における医師のあり方を、実践を通して学ぶ。

- 1) 担当患者に関して主治医と行動を共にし、入院の原因となった病態を把握する。また、主治医とともに検査計画・治療計画の立案を行う。
- 2) 病歴聴取や診察で得た所見、また、その後行われた検査の結果や今後の治療方針など、主治医がカルテに記載すべき事柄については、すべて学生用の紙カルテに記載すること。これは医師が実診療に使うカルテ（電子カルテ）とは別物であるが、主治医として実際に診療用のカルテを書いているつもりで、すべての情報を漏らさず正しい書式で記載すること。
- 3) 担当患者とは毎日面会、診察をおこなうこと。朝、指導医が到着した時点で経過、問題点などを報告できる様にする。

**手術室実習：**皮膚科・形成外科手術の実際について理解を深める。

- 1) 手洗いをし、間近で手術を見学することにより手術手技を学習する。
- 2) 術前・術後管理を主治医とともに進行。

## 【週間(基本)スケジュール】

	午前	午後	
月			CC (症例検討会) * <sup>1</sup> (17:30 医局)
火	回診* <sup>2</sup>	手術	
水	外来1診見学	手術	
木		*第2週のみ: 病理実習(14:30 医局)	
金		皮膚外科外来	preCC* <sup>1</sup>
	*4週のうち1回:関連病院での実習		

第1週の月曜日は9時に皮膚科外来処置室に集合すること。

空欄の部分については、それぞれの希望も考慮し計画する(例、外来重視、手術重視、研究室重視など)。あらかじめ皮膚科アドバンスコース担当者に相談すること。

\* 1 preCC で担当症例を割り当て、翌週月曜日の CC(症例検討会)で症例提示を行い、また担当症例について勉強したことを発表する。また手術カンファレンスも行うので、担当症例についてはこちらもプレゼンテーションを行うこと。

\* 2 回診前のカンファレンスでは、担当する症例についてのプレゼンテーションを行う。回診時にはベッドサイドで担当患者について簡単に口頭で提示する。

月曜が祝日の場合、火曜 9:30 に皮膚科セミナー室集合。

月曜が祝日の場合、CC(症例検討会)は原則として火曜 17:30 からに変更となる。

## 【評価】

到達目標で挙げた 10 項目の達成度を、実習態度、学生用カルテ記載内容、カンファレンス時のプレゼンテーション、ポートフォリオの内容などから総合的に評価する。

評価項目	配点
指導医による学生の行動内容の評価	50
学生用カルテの内容	10
ポートフォリオの内容	10
教員による試問	10
関連病院での行動内容の評価	10
病理実習の内容	10

**【教員】担当教官**

秀	道広	教	授
田中	暁生	准	教授
河合	幹雄	講	師
高萩	俊輔	助	教
菅	崇暢	助	教
岩本	和真	助	教
森桶	聡	助	教
壺井	聡史	助	教
柳瀬	雄輝	助	教

堀内	賢二	JR 広島病院	皮膚科部長（広島大学医学部臨床教授）
平郡	隆明	県立広島病院	皮膚科部長（広島大学医学部臨床教授）